

平成20年度病害虫発生予察注意報第5号

平成20年7月23日
鳥取県病害虫防除所

注意報の概要

斑点米の原因となるカメムシ類の発生が水田周辺のイネ科雑草地などで多く、斑点米被害の多発が懸念される。今後、水稻の出穂とともにカメムシ類が水田へ侵入してくるので、穂揃期から乳熟初期の防除を徹底する必要がある。

病害虫名：斑点米カメムシ類

- 1 対象作物 イネ
- 2 発生地域 県下全域
- 3 発生量 多い
- 4 注意報発令の根拠
 - (1) 水田周辺のイネ科雑草地では、アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ、ホソミドリカスミカメ類、ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシなどが発生している。

7月中旬現在、捕虫網5往復10回振りすくい取りの平均成幼虫数は225.1頭(平年:140.1頭)と平年より多く、斑点米の発生が多かった平成10年～14年と同程度～やや多い発生となっている(表1及び表2)。特にアカスジカスミカメの発生が多く、高密度(5往復10回振りすくい取り虫数500頭以上)で発生している地点が散見される。
 - (2) 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、晴れの日が多いと予想されており、出穂期を迎える水田でのカメムシ類の加害活動及び増殖に好適な条件となっている。
- 5 防除上注意すべき事項
 - (1) 水田周辺の雑草地・畦畔などのイネ科雑草はカメムシ類の増殖源となるので、適正な管理を行う。
 - ア ひとめぼれ、コシヒカリなど7月末～8月上旬に出穂期を迎えるほ場
ほ場周辺の草刈りを行っていない場合は、直ちに草刈りを行う。また、すでに草刈りを行ったほ場では、再生したイネ科雑草が出穂する前(水稻の出穂期頃)に再度草刈りを行うと、カメムシ類の密度がさらに低下する。
 - イ 日本晴、おまちかねなど8月中旬頃に出穂期を迎えるほ場
出穂20日前頃に1回目の草刈りを行い、その後、再生したイネ科雑草が穂をつける前に再度草刈りを行うとカメムシ類の密度がさらに低下する。
 - (2) 水田内で穂をつけたヒエ類はカメムシ類の発生を助長するので、見つけ次第取り除く。
 - (3) 薬剤防除は適期に行う。
 - ア 粉剤、乳剤などを使用する場合
薬剤防除は穂揃期から乳熟初期に行い、その後も発生が多い場合は7～10日間隔で1～2回の追加防除を行う。防除は地域一斉で行うと効果が高い。なお、出穂前散布の防除効果は期待できない。

イ 粒剤を使用する場合

各薬剤の散布適期を確認して湛水散布を行う(湛水散布にあたっては、農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項などを確認するとともに、止水期間を1週間程度とし、また、農薬の流出を防止するために必要な措置を講じるように努める)。また、散布後も発生が多い場合は粉剤、乳剤などで追加防除を行う。

(3) 防除薬剤は下記を参考とする。また、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業者の安全の確保に努める。

ア 粉剤

トレボン粉剤 DL、MR、ジョーカー粉剤 DL、ダントツH粉剤 DL、スタークル粉剤 DL、キラップ粉剤 DL、マラバッサ粉剤 DL、エルサンバッサ粉剤 20DL、バイジット粉剤 2DL など

イ 粒剤

ダントツ粒剤、スタークル粒剤、キラップ粒剤 など

ウ 乳剤・フロアブル・液剤

トレボン乳剤、MR、ジョーカーEW、スタークル液剤 10 など

エ 無人ヘリコプター防除剤

スタークルメイト液剤 10、トレボンエアー、MR、ジョーカーEW、ダントツフロアブル など

表1 水田周辺のイネ科雑草地などにおける斑点米カメムシ類の発生状況(7月中旬)

地区	年 (地点数)	カメムシ類の種類									合計
		アカシジ	ホソドリ	ホソハリ	トゲシラ	シラホシ	クモハリ	ムギ	クロアシ	その他	
東部	H20(12)	173.7	1.0	1.1	0.6	0.2	1.0	0.3	0.9	0.8	179.6
	平年	94.0	5.4	3.4	0.6	0.2	7.7	2.3	3.9	1.1	118.5
中部	H20(6)	159.2	5.2	0.8	0.1	0.1	1.3	2.6	0.0	2.1	171.4
	平年	96.1	6.1	2.5	0.3	0.3	8.5	9.7	2.5	1.9	127.9
西部	H20(12)	285.4	1.1	1.4	0.7	0.3	5.0	0.4	0.7	1.8	296.8
	平年	157.7	11.0	3.0	0.5	0.5	4.5	8.7	0.9	1.4	188.1
県全体	H20(30)	215.5	1.9	1.1	0.5	0.2	2.8	1.0	0.6	1.5	225.1
	平年	112.1	7.4	3.1	0.5	0.3	6.7	6.0	2.5	1.5	140.1

注) 数字は捕虫網5往復10回振りすくい取り成幼虫数。2~3カ所/地点の雑草地などを調査。

アカシジはアカシジカスミカメ、ホソドリはホソドリカスミカメ類、ホソハリはホソハリカメムシ、トゲシラはトゲシラホシカメムシ、シラホシはシラホシカメムシ、クモハリはクモハリカメムシ、ムギはムギカスミカメ、クロアシはクロアシホソナガカメムシを表す。

表2 イネ科雑草地における斑点米カメムシ類の年次別発生状況(7月中旬)

年	種 類									合計	備 考
	アカスシ	ホリミドリ	ホソハリ	トゲシラ	シラホシ	クモハリ	ムギ	クワアシ	その他		
10年	128.8	13.7	2.7	0.6	0.3	2.2	25.1	0.3	3.0	176.7	
11年	76.8	4.6	1.5	0.4	0.2	4.8	1.7	3.8	1.1	94.8	注意報発令
12年	115.6	3.5	5.6	0.5	0.4	28.3	5.1	10.0	2.5	171.5	注意報発令
13年	166.2	18.0	4.5	0.3	0.4	11.0	13.0	3.0	1.7	218.1	注意報発令
14年	127.7	8.1	2.7	0.4	0.7	5.7	7.6	1.7	0.9	155.5	注意報発令
15年	60.4	3.7	1.0	0.3	0.0	0.5	1.4	1.2	0.4	68.9	
16年	72.0	14.3	2.0	0.7	0.1	0.4	2.0	0.0	0.6	92.0	
17年	136.9	2.9	3.7	0.7	0.5	5.7	0.0	2.2	1.6	154.2	注意報発令
18年	125.4	2.0	3.2	0.5	0.2	2.8	1.0	0.6	1.5	137.2	
19年	111.5	3.5	3.9	0.2	0.3	5.2	3.3	2.6	1.5	132.0	
20年	215.5	1.9	1.1	0.5	0.2	2.8	1.0	0.6	1.5	225.1	

注) 数字は捕虫網5往復10回振りすくい取り成幼虫数。